

より良い働き方を目指して

財務省では、職員一人ひとりが充実した生活を送り、仕事と家庭生活の両立が行えるように、様々な角度から改革を進めています。より良い働き方に向けた、財務省の取り組みを紹介します。

関税局監視課 課長補佐
高橋 実枝
TAKAHASHI Mie
[平成18年入省]

CAREER
平成 18 年 国際局国際機構課
平成 20 年 仙台国税局
平成 21 年 主計局主計企画官付
平成 22 年 主計局調査課
平成 23 年 留学(米・シカゴ大)
平成 25 年 三菱商事株式会社(出向)
平成 27 年 大臣官房政策金融課 課長補佐
平成 28 年 主税局税制第二課・第三課 課長補佐
平成 29 年 主税局総務課 課長補佐
平成 30 年 関税局監視課 課長補佐
令和 元 年 育児休業



とを大きなハンデと感ずることなく働いています。また勤務環境の変化も大きく、今年は新型コロナウイルス感染症対策もあり、リモート環境の整備は格段に進みました。

仕事と育児の両立はもはや女性だけの問題ではないと、周りの同世代や後輩世代を見てつくづく感じます。そのようななかで、財務省のような幅広い政策分野に関わる組織こそ、多様性をもった人材が働ける組織であるべきです。志高き優秀な学生が、働き方の面で財務省を敬遠するようなことがないよう、私自身も前向きな組織改革に取り組んでいきたいと思っています。

また、子供ができたことで、「希望ある社会を次世代に引き継ぐ」、そして「安心・安全な社会を実現する」ことの重みを、実感を持って捉えられるようになったと感じ

ています。子どもが大きくなった時に、日本に生まれ育ったことに誇りをもって生きていてほし

い、そのためにこの組織で取り組んでみたいことはたくさんあります。

前向きな変化を遂げつつある財務省で、一緒に働きませんか。



前向きな変化の流れを次に繋げていく

「大きな変化のチャンスが財務省にも来ている。」最近感じていることです。自分が入省した頃、同期の女性職員は1人か2人。結婚して子供を産んだ後のキャリアイメージは、漠然としか掴めませんでした。その頃に比べて財務省は変わってきており、今まさに変化の時にあると思っています。

私は昨年育休から復帰し、現在は関税局で税

関の取締り業務を担当しています。安心・安全な社会を実現するという税関の使命を実現すべく、不正薬物やテロ関連物資等が日本に密輸されることを防ぐ業務です。

職場内に新設された保育所を利用しているため、執務室を出て数分後に子どもをピックアップできる環境です。理解ある上司・同僚、そして最大の理解者である夫のおかげで、子供がいるこ

オフの時間もオンにつながる財産になる

現在私は育児休暇を取得し、もうすぐ1歳になる息子の日々の成長を見守ることができていることに幸せを感じています。産まれてから毎朝「おはよう」と言い続けて、1ヶ月後に初めてにっこり笑い返してくれたときの感動や、初めて手を引きながら公園を歩いた時のドキドキ、かけがえない思い出をつくることができています。また、同時に息子から多くのことを学び、私自身も人間として成長することができました。家庭という、仕事とは異なるフィールドで奮闘し得られたものを仕事でも活かしていき、両方を楽しみながら頑張っていきたいと思っています。

学生の皆さんには、財務省は女性が働きやすい職場であるというイメージはあまりないかもしれませんが、財務省の仕事の多くは季節性があり、仕事の忙しさの緩急がはっきりしているので、前もって両立のための計画をある程度立てられるというメリットがあります。また、仕事と家庭の両立に試行錯誤しながら道を切り拓いていかれている先輩、同僚たちが増えてきてい

ます。さらに、そもそも「働き方」とは、生産性向上という、男女にかかわらず組織として絶えず改善していくべき課題です。財務省再生プロジェクトにおいてもまさに課題のひとつとして

取り組んでおり、組織としても日々進化しているところでは

多様な社会の課題を解決するには多様な人材が必要です。ぜひ財務省に足を運んでみてください。

育児休業
石黒 真理
ISHIGURO Mari
[平成21年入省]

CAREER
平成 21 年 大臣官房文書課
平成 23 年 札幌国税局
平成 24 年 IMF・世銀総会準備事務局
平成 24 年 留学(米・コロンビア大)
平成 26 年 国際通貨基金(IMF)エコノミスト
平成 28 年 理財局総務課 課長補佐
平成 29 年 理財局国有財産企画課 課長補佐
平成 30 年 主税局調査課 課長補佐
令和 元 年 主税局税制第三課 課長補佐



財務省再生プロジェクトについて

「国の信用を守り、希望ある社会を次世代に引き継ぐ」

この財務省の使命を果たしていくため、そして、時代にふさわしい働き方ができ、より高い価値を社会に提供することのできる組織風土をつくり上げるため、財務省全体で組織改革を進めています。風通しが良く、チームワークで成果を上げることができ、一人ひとりが自己研鑽と挑戦に励むことができるような職場を目指し、様々な取り組みを行っています。



コンプライアンス

コンプライアンスの確保を通じて適正・公平な行政を行いつつ、組織を率いる職員のマネジメント力を高めることで、財務省、ひいては国に対する信頼の維持・向上を目指しています。

取 り 組 み

全職員を対象として、コンプライアンスに関する研修を実施しています。中でも、組織パフォーマンスの向上や風通しの良い職場づくりを目指して、マネジメントやコーチングのスキルを強化するための取組みに力を入れています。事例に基づいたディスカッションを多く取り入れることをはじめとし、効果的な研修を行っています。



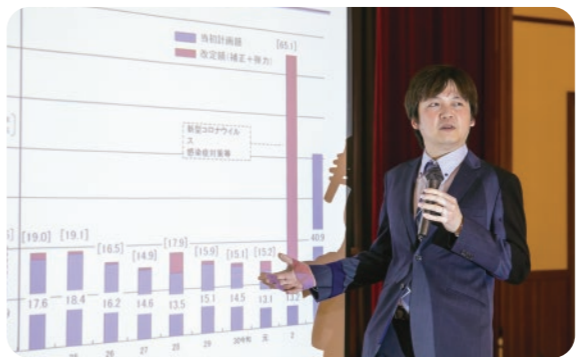
人 材 育 成

政策の立案・実現能力を高めるため、専門性や語学力強化を目指した研修や、世代や部局を越えた勉強会を実施し、戦略的に人材を育成しています。

取 り 組 み

高い専門性を持った人材を育成するため、部局を越えて経済分析を行う仕組みを立ち上げるとともに、国際機関の要求水準に合わせた経済財政理論の研修を行っています。他の研修の例として、本年は「テレワークマネジメント研修」を新たに実施し、優れた取組みとして「国家公務員制度担当大臣表彰」を受賞しました。また、職務環境の改善や組織パフォーマンスの向上に向けて、部下が上司を評価する「多面観察(いわゆる360度評価)」を導入しています。

具体的な取組み例



充実した省内研修

人材育成の取組みの一環として、職員の専門性向上に資する様々な研修を開催しています。若手職員に対して、先輩職員が自身の経験とともに、様々な政策課題に関する知見を共有する勉強会を実施しているほか、所属部局を横断して編成したチームで、1年間特定の政策課題について理解を深め、議論を行う等、職員同士の高め合いの機会を設けています。また、国際社会で活躍する人材を育成するためのハイレベルな英語研修等、個々の職員のニーズや能力に応じた、実践的な研修も拡充させています。



働き方改革・業務効率化

時代にふさわしい仕事のやり方を追求し、効率的な働き方をしながら高い成果を上げることを目指しています。新しい技術も活用し、職員の業務改革に対するアイデアを実現しています。

取 り 組 み

保育所の開設や、感染症対策を契機としたテレワーク環境の大幅拡充・ウェブ会議システムの導入等、新しい働き方を推進しています。また、これまで手作業で行っていた業務の自動化を行うRPAをはじめ、ITを積極的に活用し、業務改革に取り組んでいます。



コミュニケーション

聞き手の視点に立って「伝わる広報」を行い、外部との双方向のコミュニケーションに取り組んでいます。また、お互いの顔が見える組織をつくり、組織内の連携・協働を促進しています。

取 り 組 み

スライド作成やプレゼンのスキル等、伝える技術の向上に向けた研修や、若年層や子育て世代、地域社会に向けた財政講座を実施しています。組織内のコミュニケーションでは、若手と幹部の座談会を定期的に行う等、役職を超えた交流を盛んに行っているほか、省内ニューズレターで幹部へのインタビューを掲載する等、風通しの良い職場づくりを行っています。



若手の声で業務改革

質の高い政策を作り上げるためには、多様な職員一人ひとりが能力を最大限に発揮し、より付加価値の高い業務に集中していくことが重要です。その原動力は、各職員が自ら課題を発見し、解決のためのアイデアを考えること、そして、仲間とともにそうしたアイデアを実現していくことです。財務省では、部局を超えて、業務改善のアイデアを共に考えるための意見交換会を実施しています。こうした活発な議論を重ねながら、テレワーク環境の充実といった場所にとらわれない働き方や、RPAをはじめとするITを活用した業務の効率化等を実現しています。私たちと一緒に、進化し続ける財務省と一緒につくっていきませんか。